

令和4年度 GIGA校内研修 実践報告

学校名 (津幡町立中条小学校)

月	全体研修	若プロ	研究授業	朝学習
4月	・クロームブックの機能について ・GIGAスクール構想の共通理解			<div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px;"> 学校の実態に合わせて、様式をカスタマイズして記載している。組織的にどのように進めてきたかがよくわかる。 </div>
5月	・1人1台端末環境での情報モラル教育について	・授業の実践例紹介	・全体研提案授業(3年算数科)	
6月	・効果的なICTの活用方法について～5年理科撮影授業での実践より～		・全体研(5年社会科) ・ブロック研(2年算数科・3年算数科・5年理科・5年算数科)	
7月	・大学教員による講義「ICTを効果的に活用した見取りの方法とその見取りを授業で活かす指導の在り方について」			
中間目標使う	<div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px;"> 【児童】 ・校内の1人1台端末の使用ルールを守って使用している。 ・「オクリンク」「ムーブノート」「ジャムボード」などの機能を効果的に使った授業を1回以上経験する。 </div>		<div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px;"> 【教員】 ・1週間の内に4回以上は児童と共にクロームブックの端末を使用する。 ・「オクリンク」「ムーブノート」「ジャムボード」などの機能を効果的に使った授業を月に1回以上行う。 </div>	
8月	・大学教員による講義「効果的なICT活用方法について」	<div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px;"> 全校が朝学習などの帯タイムで共通の活動に取り組むことで、児童全員が同じ機能を使うスキルを身につけることにつながり、端末を活用した授業の広がりにつながっている。 </div>		・思考ツールを使った話し合い(ジャムボードでイメージマップ)
9月			・学校訪問指定授業	・思考ツールを使った話し合い(ジャムボードでベン図)
10月	・公開研究会(4年国語科・6年国語科)		・全体研(1年国語科) ・ブロック研(2年算数科・5年音楽科・たんばぼ算数科)	・思考ツールを使った話し合い(ジャムボードでピラミッドチャート)
11月			・ブロック研(1年国語科・3年社会科・4年理科・6年理科)	・思考ツールを使った話し合い(ジャムボードでイメージマップ)
12月			・ブロック研(3年理科・ひばり国語科)	・思考ツールを使った話し合い(ジャムボードでベン図)
中間目標活用する	<div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px;"> 【児童】 ・校内の1人1台端末の使用ルールを守って使用している。 ・「オクリンク」「ムーブノート」「ジャムボード」などの機能を効果的に使った授業を5回以上経験する。 </div>		<div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px;"> 【教員】 ・1週間の内に4回以上は児童と共にクロームブックの端末を使用する。 ・「オクリンク」「ムーブノート」「ジャムボード」などの機能を効果的に使った授業を月に2回以上行う。 </div>	
1月	・大学教員による講義「個別学習と協働学習が行き来するGIGANEXTの学習の在り方について」			・思考ツールを使った話し合い(ジャムボードでピラミッドチャート)
2月	・公開研究会を終えて効果的な活用における成果・課題の共有			・思考ツールを使った話し合い(ジャムボードでイメージマップ)
3月				<div style="border: 1px solid green; border-radius: 10px; padding: 5px;"> 中間目標から児童の目標と教員の目標を分けて記載していることで、いつまでに、教員はどんなことを行っていけばよいのか、児童はどんなことができるようになればよいか明確になっている。 </div>
目標「令和4年度末にめざすICTを活用した学びの姿」				
<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> 【教員】 ①教師が児童の実態を把握するために、「オクリンク」「ムーブノート」「ジャムボード」などの機能を扱うことができる。 ②教師が児童の思考を促すために、「オクリンク」「ムーブノート」「ジャムボード」などの機能を扱うことができる。 【児童】 ①全児童が校内の1人1台端末の使用ルールを守ることができる。 ②全児童が「オクリンク」「ムーブノート」「ジャムボード」などの機能を扱うことができる。 </div>				

成果

・年度当初に全教員で「効果的な活用」について共通理解を図り、学校研究の重点に沿って取り組みを進めてきたことで、「見取りの場面」と「教師の働きかけの場面」における効果的なICTの活用の在り方について、目的別に整理し、全教員で活用できるようになった。
 ・目的に合った機能を共有できたことで、児童全員に同じ機能(オクリンク・ジャムボード等)を用いて授業を行うことや目的に応じた媒体(端末・ノート等)を使用することができるようになってきた。

課題

・児童自身が自らの課題を解決するために、端末・ノート等の媒体を選択できる能力を向上させること。
 ・児童が端末を用いる際、機能を選択できる能力を向上させること。
 ・個々の児童が選択した手段に対応できる教員のICT活用能力を向上させること。

今後の方向性

・来年度の「発展期」には、児童が多様に媒体や機能を選択して授業に臨めるように、教員自身がICTに関わる活用力・指導力を更に伸ばしていく。
 ・児童が自らICTの機能を選択できるように、朝学習の時間等を通して、児童のICTを活用する技能を更に向上させる。
 ・ICTのよさを児童に実感させるために、教員は児童と共にICTの様々な機能を使用した授業を行っていく。